



地域がはぐくんだ、ふれあいのつながりを訪ねて

愛ランドまーい

人と人のつながりがより身近な地域には、途切れることのない人の輪があり、脈々と継がれる絆があります。共同体意識に根ざした独特の活動を展開する各字を訪ねました。

我如古のサングワチャー

宜野湾市我如古には、女性だけで踊られるスンサーミーの行事が伝えられています。そこのキーチリー(かすり)を身にまとった女性が、円陣を組み、地方(じかた)のうた三線に合わせ、しなやかな舞を披露します。スンサーミーは、五百年以上も昔、察度王の子孫である我如古大主(うふしゆ)が我如古グスクを築城した際、その祝宴で披露されたのが始まりとされています。かつては豊年や子孫繁栄を願って旧暦八月十七日に踊られていましたが、いつの頃からかサングワチャーと言われる旧暦三月三日に踊られるようになりました。



戦前はヒラマーチャー(平松)踊られ多くの見物客が詰め掛けた。戦後はヒラマーチャー(平松)踊られ多くの見物客が詰め掛けた。

昔、スンサーミーが披露されなかった年に、若者の死があいついだという言い伝えがあり、欠かしてはならない行事として受け継がれてきました。戦時中は、中断を余儀なくされましたが、「ワカムビカリ(若者の死)があつてはならない」という女性たちの強い思いに支えられ、戦後間もない昭和二十二年に復活されています。毎年、サングワチャーが近づくと、地元婦人会が中心となり、練習が始まります。時には、指導にあたるお年寄りから「ワングトウアーラン(そうじゃない)」などと、厳しい声も上がります。



若者の無病息災を願う、女性の思いが継承を支える 宜野湾市我如古のスンサーミー

スンサーミーは四つ竹踊りと手踊りがあります。その昔は、男子禁制の祭祀で男性は見ることを許されませんでした。

町の由来は、我如古グスク

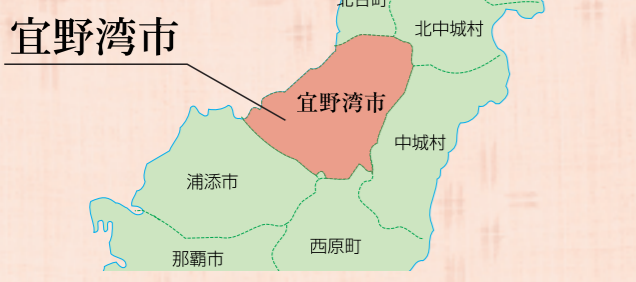
宜野湾市我如古は市の南端に位置し、中央部を国道三三〇号が東西に走ります。戦前はのどかな農村地帯でしたが、戦後は国道沿いに店舗が立地し、宅地の開発も進んでいます。集落内にある我如古グスクは、中山王武寧の三男である我如古大主の築いた城といわれ、我如古の由来とされています。グスクの遺構は残されていませんが、中心部に我如古大主のほこら(碑)が建立されています。戦前までは、我如古グスクの手前に、我如古ヒラマーチャーと呼ばれる枝ぶりの美しい松の原木がありました。沖縄戦で焼失しました。



我如古グスク。スンサーグスク内のカー(井泉)で行われます。



現在は我如古区公民館で旧暦3月3日以降の週末に開催されています。



コンベンションエリア
コンベンションセンター周辺には、国際・国内のコミュニケーションの場として、会議・展示会・スポーツ・音楽等の施設が充実しています。



天女伝説発祥の地「森の川」
絶えず水が湧き出る清泉で、沖縄県の名勝に指定されています。「森の川」で出会った奥間大親と天女の子に生まれた男の子は、後に中山王・察度となり南蛮貿易を盛んに行き、琉球の国づくりをしたと伝えられています。



宜野湾はごろも祭
県内有数の祭りの一つに数えられ、なかでもカチャーシー大会は圧巻で、見る人をも巻き込むほどの迫力を持っています。



田いも畑
大山地区は田いも栽培の第1条件である湧水が豊富で、常に県内1、2位の生産高を誇っています。平成16年度の「沖縄、ふるさと百選」に選ばれました。

宜野湾市の概要
市内をドーナツ状に国道58号、国道330号、県道宜野湾北中城線、さらに沖縄自動車道の北中城インターチェンジ、西原インターチェンジへもつながり容易な沖縄本島の中部及び北部を結ぶ交通上の重要な地点に位置しています。コンベンションエリアの施設拡充や整備が進み、年間を通して多様なイベントが開催され、横浜ベイスターズの春季キャンプ地としても有名です。

コンベンションシンディエー「ねたての都市ぎのわん」

※物事の根源または共同体の中心

コンベンションセンターを中核として、人・物・情報が国際的な次元で出入りする都市・宜野湾は、県内の高次都市機能の一部を担い成長発展しています。